

医学教育分野別評価
東京女子医科大学医学部医学科
年次報告書
2023(令和5)年度



令和5年8月
東京女子医科大学医学部医学科

医学教育分野別評価 東京女子医科大学医学部医学科 年次報告書 令和 5 年度

医学教育分野別評価の受審(令和 2)年度 受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.2
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.32

1. 使命と学修成果

領域 1.3、1.4 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、アウトカム、アウトカム・ロードマップの修正を行っている。学生代表を含む教育に関わる主要な構成者の委員会への参画を随時進めているが、患者代表、一般市民の参画はコロナウイルス感染症蔓延のため進んでおらず今後の課題といえる。

1.3 学修成果

質的向上のための水準：部分適合

改善のための示唆

国際保健に関して、学修成果およびアウトカム・ロードマップの中で明示することが望まれる。

改善内容や今後の計画

国際保健に関しては 第 4 学年 セグメント 7 科目名社会制度と保健・医療・福祉の中で 32 世界の公衆衛生学・社会医学・医療人類学 科目名 環境と健康・疾病・障害 の中で 26 世界の保健問題(1) 30 世界の保健問題(2) で扱っている。シラバスの中で 科目名 環境と健康・疾病・障害 の評価項目に 世界の保健・医療問題(B-1-9①)、国際保健・医療問題(B-1-9②)を記載している。アウトカム・ロードマップでは、1, 2 年ロードマップの A.医学的知識を医療に活用できるの④に「世界の保険・医療問題、国際保健に関わる組織・計画・リソースについて概説できる。」と記載している(令和 4 年 9 月に追記)。

資料 1-3-1 学修の手引き 第 1 学年(Segment1)

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

使命と学修成果を見直す際は、学生代表を含む教育に関わる主要な構成者が参画すべきである。

改善内容や今後の計画

使命と学修成果の見直しは医学教育の質向上委員会で行うため、医学教育の質向上委員会、教務委員会の規程を修正し、随時学生代表を含む教育に関わる構成者が参画する委員会を開催できるように規程を整え、第 52 回医学教育の質向上委員会より学生代表の参加が開始された。

改善状況を示す根拠資料

資料 1-4-1 医学教育の質向上委員会内規

資料 1-4-2 第 52 回医学教育の質向上委員会議事録

質的向上のための水準

改善のための示唆

広い範囲の教育の関係者を定義し、それらが使命と卒業時コンピテンシーの作成や改

定に参画することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「広い範囲の教育の関係者」として、患者代表、一般市民の「医学教育の質向上委員会」への参加の手順について医学教育の質向上委員会で議論をし、医学教育の質向上委員会内規を改訂し、第4条(11) 委員会が推薦し、理事長が指名する患者代表者および一般市民 若干名を入れることができる 第4条第3項 なお、患者代表者については、東京女子医科大学病院または本学附属医療施設の患者であり、本学教職員の推薦を必要とするとの文言を加えた。

改善状況を示す根拠資料

資料 1-4-1 医学教育の質向上委員会内規

資料 1-4-2 第52回医学教育の質向上委員会議事録

2. 教育プログラム

2.7 プログラム管理

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ教務委員会に学生の代表を含めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善案1 : 教育委員会に学生の代表の参加を求める。

改善内容1 : 教育委員会に学生の参加が行われた。

改善内容2 : 医学教育質の向上委員会に学生の参加が行われた。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-7-1 令和2年度カリキュラム懇談会(後期)議事録

資料 2-7-2 令和3年度後期カリキュラム懇談会議事録

資料 2-7-3 令和4年度後期カリキュラム懇談会議事録

2.8 臨床実践と医療制度の連携

質的向上のための水準：部分的適合

改善のための示唆

卒業生が将来働く病院などからの情報を得て、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。

教育プログラムの改良には、地域や社会の意見を取り入れることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善案1 : 卒業生アンケートを実施し、本学の教育プログラムに関するコメントをもらう。

改善内容1 : 卒業生アンケートを実施し、本学の教育に対するフィードバックを蓄積・分析している。また、それを教育審議会、教育の質向上委員会等で検討している。(令和4年度に関しては、諸事情のため実施できず、令和5年度に2か年分の調査を実施予定である。その際の質問項目について改変が必要か、検討中である)

改善案1 : 教育プログラムの改良のため、患者代表の意見を聴く。医学教育質向上委員会に患者代表の参加を要請する。

改善内容 2：医学教育の質向上委員会規程を改訂し、「委員会が推薦し、理事長が指名する患者代表者および一般市民 若干名を入れることができる」とした。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-8-1 医学教育の質向上委員会内規

3. 学生の評価

3.1 評価方法

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

教員の親族などが試験を受ける際の取り決めを作るなど、評価方法および結果に利益相反が生じないようにすべきである。

評価に対する疑義申立て制度を設け、明文化すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教員が学生の父母であった場合の試験問題作成、成績評価について、教務委員会において検討し、「学則第 11 条関係 試験に関する規定の運用」に以下の事項を明記した。

1)試験問題作成、成績評価を担当する教員が当該学年の学生父母である場合、評価方法および利益相反が生じないように、当該年度に限り担当することはできない。2)実務として学生教育を担当することや担当部分な形成的評価を行うことは可能とするが、総括的評価や最終成績は科目責任者またはセグメント主担当が行うこととする。なお、親族の定義、範囲(父母のみとするか、伯父、叔母等を含めるか)をより明確にすることも考慮される。

試験問題に疑義が生じた場合は、受験生の代表の学生は科目責任者に試験日から 2 日以内(試験日を含めない)に連絡すること、と学生便覧に記載されている。

評価に対する疑義の申し立てについては、学生の代表者がとりまとめて、学年担任(評価者である科目責任者・教育委員会等とは独立しており、中立の立場で対応を行う)を通じて科目責任者に異議申し立てを行う制度を定め 2023 年度学生便覧に記載を決定した。

改善状況を示す根拠資料

資料 3-1-1 令和 2 年 12 月度医学部教務委員会議事録

資料 3-1-2 令和 3 年 9 月度医学部教務委員会議事録(審議事項 13. 学則第 11 条関係 試験に関する規定の運用)

資料 3-1-3 学生便覧 2023 P28 試験時の学生心得

3.2 評価と学修との関連

質的向上のための水準：適合

改善のための示唆

試験問題や模範解答の公開をさらに進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

臨床分野の多くの科目は MCQ 形式の試験問題を出題している。その試験問題、解答、解説は学生ポータルサイトのキャビネット機能を用いて公開している。権限を割り当てられた学生と教職員が学内に限って利用できるファイル共有機能を使用している。科目責任者はキャビネット機能を使用して試験問題、解答、解説をアップロードする。翌年 4 月以降、学生は在学中、学年を問わず閲覧およびダウンロードが可能である。

基礎分野においても試験問題、解答、解説をポータルサイトで公開しており、筆記試験についても模範的な解答と解説を提示している。基礎分野は筆記試験が多く、CBT などを視野に入れた MCQ 形式の問題を出題することが検討されている。令和 3 年度後

期から、PBL(problem based learning)テュートリアルから TBL(team based learning)に移行したことにより、MCQ 形式の問題に解答する機会が増加していると考えられる。一方、卒後は応用力が求められることから、上級学年での記述式や口頭試問、PBL(problem based learning)教育の導入の必要性も議論されている。出題形式について、引き続き検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 3-2-1 令和 2 年 11 月度医学部教務委員会議事録

資料 3-2-2 医学部科目試験における本試の試験問題と解答・解説のポータル掲載について(医学部教務委員会資料、令和 3 年 4 月 7 日)

資料 3-2-3 基礎系問題および回答、記述式(セグメント 1、体液と生体の恒常性) キャビネット一覧より。

資料 3-2-4 基礎系問題および回答、MCQ 形式(セグメント 2、細胞の成り立ち) キャビネット一覧より。

資料 3-2-5 第 63 回医学教育の質向上委員会議事録

4. 学生

4.1 入学方針と入学選抜

質的向上のための水準：部分的適合

改善のための示唆

入学決定に対する疑義申立て制度を採用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

一般選抜第 1 次試験の不合格者に限り、申請のあった者に学科得点を開示している。要領は大学 HP 医学部受験案内に常時掲載し受験生がアクセスしやすいように改善した。

入学決定に対する疑義申し立ての制度化については、入学決定は学科のみならず、面接、小論文など複数の観点から判断され、推薦入試、一般入試の学科以外の成績開示にも関連するため、理事会、教育審議会、入試検討委員会に提案し、令和 4 年度中に制度化を検討し、令和 5 年度に募集要項と大学ホームページに疑義申し立てについて、申し立てに関する問い合わせ先(学務課)を明記することを検討している。

改善状況を示す根拠資料

資料 4-1-1 <http://www.twmu.ac.jp/univ/medical/m-ent/ippan.php>

資料 4-1-2 令和 4 年度一般選抜第 1 次試験における個人成績開示について

4.4 学生の参加

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

使命の策定、教育プログラムの策定、管理、および学生に関する諸事項を審議する委員会に学生の代表が参加し、適切に議論に加わることを規定し、履行すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラムの策定、管理、および学生に関する諸事項を審議する委員会である、教務委員会、学生委員会、医学教育の質向上委員会では学生の参加に関して、令和 2 年度までに規程または内規に明示した。(資料 4-4-1、資料 4-4-2、資料 4-4-3)

その結果、令和 3 年度には学生委員会および医学教育の質向上委員会への学生参加が開始された。第 4 学年(S7,S8)で、医療面接の練習をどのように推進するかの議論の中で、学生から、医療面接のシナリオ作りとロールプレイを行うクラブ活動があるので、その部員に参加してもらおうのはどうかとの提案があった。このことは医学教育の質向上委員会から教育審議会に発議、検討され、令和 5 年度の実施を目指して準備することとなった。(資料 4-4-4、資料 4-4-5、資料 4-4-6)。

上記とは別に、学生カリキュラム委員・医学部長・教務委員会の委員で構成されるカリキュラム懇談会、学生厚生委員・学生委員で構成される厚生懇談会が定期的に開催され、教育プログラムおよび学生に関する諸事項を議論している。(資料 4-4-7、資料 4-4-8、資料 4-4-9、資料 4-4-10、資料 4-4-11)。令和 4 年度は、カリキュラム懇談会および厚生懇談会を併せた合同懇談会を、前期(6 月)(資料 4-4-12)、後期(11 月)(資料 4.4.13)にそれぞれ開催し、学生の意見を取り入れたカリキュラム改変の検討を行った。

今後は教務委員会へ学生が必要に応じ参加するとともに、引き続き学生委員会や医学教育の質向上委員会における審議に学生や職員が加わり、多様なステークホルダーの意見を教育や調査等に反映させる仕組みを検討する(資料 4-4-14、資料 4-4-15)。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 4-4-1 医学部教務委員会規程
- 資料 4-4-2 医学部学生委員会規程
- 資料 4-4-3 医学教育の質向上委員会内規
- 資料 4-4-4 令和 3 年 12 月度第学生委員会議事録
- 資料 4-4-5 第 51 回医学教育の質向上委員会議事録
- 資料 4-4-6 第 52 回医学教育の質向上委員会議事録
- 資料 4-4-7 医学部カリキュラム懇談会規程
- 資料 4-4-8 厚生懇談会規程
- 資料 4-4-9 令和 3 年度前期カリキュラム懇談会議事録
- 資料 4-4-10 令和 3 年度前期厚生懇談会議事録
- 資料 4-4-11 令和 3 年度後期合同懇談会議事録
- 資料 4-4-12 令和 4 年度前期合同懇談会議事録
- 資料 4-4-13 令和 4 年度後期合同懇談会議事録
- 資料 4-4-14 第 54 回医学教育の質向上委員会議事録
- 資料 4-4-15 第 58 回医学教育の質向上委員会議事録

6. 教育資源

領域 6 講評と基本的水準における「改善のための助言」では、学生が確実に必要な臨床経験を積める体制を整備すべきと指摘を受けた。附属病院を含めて、自己学習のためのコンテンツの提供および情報へのアクセス環境を充実すること、診療参加型臨床実習を実践するために学生の電子カルテへの記載を確実にできるような改善が今後の課題である。

6.2 臨床実習の資源

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

プライマリ・ケアを含め、学生が確実に必要な臨床経験を積める体制を整備すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

昨年度報告後も、必要な臨床経験を積める体制を維持することに努めているが、新型コロナウイルス感染症蔓延もあり、思うように進んではいない。しかしながら、臨床実習ノートに症例、症候、医行為等々のチェックリスト、mini CEX 記録の一元化などの改良を生かし、必要なデータの検討を、臨床実習を指導する教員と共有し、活用に努めている。令和 2 年 4 月より都立松沢病院との協定を結び、同院での臨床実習を開始し、現在も継続して精神科臨床実習の充実を図っている。総合診療・一般内科外来、救急外来部門での実習時間の確保、増加を計画する実習に関しては新型コロナウイルス感染症の影響により、現在進展はない。このため、学生が自由に利用できる新しい e-learning シス

テムとして、ClinicalKey Student Japan を導入した。

改善状況を示す根拠資料

資料 6-2-1 ClinicalKey Student Japan 説明書

6.3 情報通信技術

質的向上のための水準：部分的適合

改善のための示唆

附属病院を含めて、自己学習のためのコンテンツの提供および情報へのアクセス環境を充実させることが望まれる。

診療参加型臨床実習を実践するために学生の電子カルテへの記載を確実に行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

新型コロナウイルス感染症蔓延のため、縮小運用とはなったが、入門型臨床実習カリキュラムでは、カルテ記載についての学修を継続している。

学生用電子カルテ端末の増設を継続して検討しているが、現在大学病院で使用している電子カルテシステムの増設は現時点では行えていない。

改善状況を示す根拠資料

資料 6-3-1 図書館 EBM ツール

資料 6-3-2 学修の手引(Segment7)(入門型臨床実習)

6.4 医学研究と学識

質的向上のための水準：適合

改善のための示唆

「研究プロジェクト」後に、学生が研究を継続できる環境のさらなる充実が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

研究プロジェクトで着手した研究をその後も継続してゆくために、上級に進んだ後もより深めた内容を学会で発表を行うことを推進している。また、研究内容を論文投稿した際には、表彰を行うことが行われるようになっている。

上記を継続中。

改善状況を示す根拠資料

資料 6-4-1 令和 3 年 4 月度教務委員会議事録

資料 6-4-2 学会発表の出張許可申請書

資料 6-4-3 令和 3 年研究プロジェクト教育委員会議事録

7. プログラム評価

7.1 プログラムのモニタと評価

基本的水準：適合

改善のための助言

学生の教育進度をモニタし、個々の学生の成長を評価できるシステムを充実させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和 3 年度の後期から新たな Learning Management System である WebClass が導入された。本システムにて、学生カリキュラム、講義資料、課題提出、試験問題閲覧、

講義復習テストなどが統合して学生に配信され、配信講義の視聴状況、課題提出状況、学生評価や学習進度の観察をまとめて行うことが可能となった。教員を対象に WebClass 利用の Hands On セミナーを開催した。今後、各学生の 6 年間にわたる学習ポートフォリオとして、学習進度の観察とフィードバックを行うため、業者に依頼して学修の進捗が学生自身に一目でわかるようなダッシュボード機能の作成を進めている。

また、各学生が修得した知識や能力等を明らかにするための取組みとして、ディプロマ・サプリメントを導入することとした。令和 3 年 11 月 17 日(水)に第 1 回の WG 会議(学部長、教務委員長、統合教育学修センター、教育委員長他)、第 2 回を 3 月 4 日(金)に実施し、今後の方針を検討した。Plus-DX 補助金を活用し、ディプロマ・サプリメントの様式を作成、医学部 6 年生、看護学部 4 年生で卒業時に成績証明書の補足資料として、評価をレーダーチャートの形で可視化したディプロマ・サプリメントを発行する予定となった。令和 4 年度にトライアル、令和 5 年度に本格実施する予定である。

※医学部：臨床実習ポートフォリオシステムと WebClass のデータ連携を行い、「診療参加型臨床実習の到達度」として、成績評価項目の 10 項目を選び、WebClass 上でディプロマ・サプリメントを作成する。

※看護学部：WebClass 上の成績(ディプロマ・ポリシーである教育の 6 本柱と紐づいた 1~4 年生の必修科目の成績)から直接ディプロマ・サプリメントを作成する。

ディプロマ・サプリメントは出力の最終デザインが決定し、WebClass からの PDF 出力が可能となり、トライアルとして令和 4 年度両学部卒業生に配布した。

学生の個人の学業成績は、WebClass の「修学カルテ」から確認できるように調整中である。

臨床実習ポートフォリオシステム自体の WebClass への統合を、臨床実習コーディネーターの協力を得て来年度に行う準備を進めている。

"改善状況を示す根拠資料

資料 7-1-1 WebClass のご紹介(日本データパシフィック株式会社)

資料 7-1-2 ディプロマ・サプリメント WG 第 1 回議事録、第 2 回議事録

資料 7-1-3 DP 学修達成度 PDF ダウンロードマニュアル

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

すべての教員から、系統的にカリキュラム全体に関する意見を収集すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和 3 年 10 月に医学部全教員 1,000 名以上にアンケートを依頼し 390 名から講義、実習、試験、遠隔授業等に関する回答を得た。次年度に向けて教務委員会、各学年教育委員会で改善点を検討していく予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 7-2-1 令和 3 年 11 月度教務委員会議事録

資料 7-2-2 2021 年度前期_教育カリキュラムに関するアンケート集計(教員)

質的向上のための水準：部分的適合

改善のための示唆

教員のフィードバックの結果を利用してプログラムの開発を行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和 3 年度から本格的に各授業終了後の復習テストを実施し、各講義内容に対する学生の理解度の評価を行い、各講義者にフィードバック、次年度以後の講義の改善につなげるようにした。ほぼすべての講義で復習テストを実施するようにした。

教員からのフィードバックで要請が多かった 学生支援(電源オン オフ スライド

映画の補助)などについては学生からティーチングシスタントを適用することを学生にカリキュラム懇談会を通じて伝えた。また配信講義での一部学生参加についても 選択式対面講義方式を取り入れ半数以下の学生が聴講できるようにした。

臨床実習を担当する教員からのアンケートでは、臨床実習ポートフォリオシステムの評価項目(21項目)が多いことにより、担当科によって評価不能の項目があること、項目が多すぎて評価に時間がかかり、評価が不正確になりやすいとの意見が出た。このため評価項目の見直しを行い、10項目にまとめた(資料 7-2-7)。

教員アンケートから、第5学年の臨床実習初期の4~7月の成績が下位25%の学生に1科あたり2回 miniCEX を行う取り組みが大きな負担となっているという複数の意見が寄せられた。今回 miniCEX の実施回数と Post-CC OSCE 成績との相関がみられておらず、成績上位者と下位者の間の評価にも有意差がみられないが、コロナ禍により本来の miniCEX とは異なる方法で行われた例が少なからず見られたため、この取り組みは一旦中止とし、解析の見直しを行っている(資料 7-2-8)。

改善状況を示す根拠資料

資料 7-2-3 令和2年9月度教務委員会議事録

資料 7-2-4 前期・講義受講後アンケート結果報告

資料 7-2-5 講義復習テストに関する IR 報告

資料 7-2-6 令和3年12月度教務委員会議事録(合同懇談会(カリキュラム&厚生)報告)

資料 7-2-7 臨床実習共有の会 Zoom 会議資料(令和5年4月12日)

資料 7-2-8 教務委員会報告事項(miniCEX 2回実施の効果)

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

卒業生の実績に対して、より網羅的な情報収集と分析を定期的実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒業生の実績や現在の勤務、キャリア形成の実態と母校への愛着、教育カリキュラムへのフィードバックに関する調査を令和3年12月~令和4年1月にかけ実施し、データ集計を実施中である。今後も毎年定期的に卒業生調査を行う予定である。

令和4年度卒業生調査実施については、令和3年度のアンケート結果をもとに質問項目を設定し、修正は完了した。令和4年度は諸事情によりアンケートを年度内に実施できなかったため、令和5年度分と一緒にを行う予定である。

初期臨床研修医である卒業後1,2年目の卒業生に関するアンケートを行った。回収率は卒業1年目が14.4%、卒業2年目が21.5%、合計17.8%と少なかった。集計はこれから行う予定である。

就職先からのフィードバック収集については、卒業生調査にて本学卒業生の指導の有無とディプロマ・ポリシーを満たしているかを調査予定である。

実施の効率化や回収率の改善については、アンケート資料送付等で、学務課と統合教育学修センターとの連携を模索する予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 7-3-1 2021年度医学部卒業生調査年次報告書

質的向上のための水準：部分的適合

改善のための示唆

卒業生の実績に対して、より網羅的な情報収集と分析を定期的実施し、責任がある

委員会へフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒業生の実績や現在の勤務、キャリア形成の実態、キャリア構築に役立ったカリキュラム、キャリアサポートのニーズなどに関する調査を令和3年12月～令和4年1月にかけて実施したことが、医学教育の質向上委員会にて1月に報告された(資料7-3-6)。得られたデータは現在解析中であり、医学教育の質向上委員会、教育審議会、教務委員会等適切な委員会に報告予定である。

令和3年度卒業生調査の実施報告は医学教育の質向上委員会について実施済みである。

さらなる解析については、カリキュラムで評価の高かった臨床実習と、現在の教員負担について報告済みである

令和3年度卒業生調査報告書を完成させ、両学部長に回覧済みである。ホームページ版については今年度中に掲載をした。

令和4年度卒業生調査は事情により年度内実施ができなかったため、令和5年度中に実施し、報告書を作成する予定。

改善状況を示す根拠資料

資料7-3-1 2021年度医学部卒業生調査年次報告書

資料7-3-2 2021年度看護学部卒業生調査年次報告書

資料7-3-3 第39回医学教育の質向上委員会議事録

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

プログラムのモニタと評価に関わる「自己点検・評価審議委員会」および「医学教育の質向上委員会」への、職員および学生代表の委員としての参画を実質化すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教務委員会規程にカリキュラム懇談会を正式に記載し、教務カリキュラムに関する学生の意見を直接聴取する機会を持っている。(教務委員会)

医学教育の質向上委員会では職員代表として学務課職員が参画している。令和3年度に完了。更に令和4年度4月より学生の参画も開始した。

改善状況を示す根拠資料

資料7-4-1 令和3年度後期合同懇談会議事録

資料7-4-2 第52回医学教育の質向上委員会議事録

質的向上のための水準：部分的適合

改善のための示唆

プログラムの評価の結果について、教育の関係者に対する開示に関する方針を定めることが望まれる。

広い範囲の教育の関係者に、卒業生の実績に対するフィードバックを求めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

全教員、全学生に対して行っている講義、実習、試験等教育カリキュラムに対するアンケート調査結果を大学ホームページ上に掲載する予定である。

卒業生の実績に対するフィードバックを得られるよう、卒業時調査、卒業生調査の集

計解析結果を大学ホームページに掲載した。(教学 IR チーム)

令和 3 年度卒業時調査の結果は、大学ホームページに掲載済み。令和 3 年度卒業生調査の結果は集計が済み、掲載準備中。

- ・令和 4 年度卒業時調査は実施済み、今後解析する。

改善状況を示す根拠資料

資料 7-4-3 ホームページ(卒業生調査結果)

(https://www.twmu.ac.jp/univ/about/graduate_research.php)

資料 7-4-4 ホームページ(卒業時調査結果)

(https://www.twmu.ac.jp/univ/about/graduating_senior_research.php)

8. 統轄および管理運営

8.4 事務と運営

基本的水準：適合

改善のための助言

教学にかかる事務組織および専門組織をさらに充実させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善案：事務組織および専門組織の改組を行い、機能の充実を図る。

改善内容：1. 令和 2 年度に統合教育学修センターを開設した。同センターでは、事務系と教員が協力して、大学全体の教育の質向上のための解析や、大学での教育に必須の業務を担当する。令和 3 年度、令和 4 年度には統合教育学修センターが教育関連の業務を更に精力的に実施した。

2. 教育の内部質保証に関わる部署の内規を見直し、それぞれの委員会の位置づけと関係性、全体的な内部質保証のシステムがわかりやすくなるように、規程を改訂中である。

改善状況を示す根拠資料

資料 8-4-1 統合教育学修センター内規

資料 8-4-2 統合教育学修センター令和 2 年度報告書

資料 8-4-3 統合教育学修センター令和 3 年度報告書

資料 8-4-4 統合教育学修センター令和 4 年度報告書

9. 継続的改良

基本的水準：適合

改善のための助言

継続的改良を行うために、「医学教育の質向上委員会」の機能をさらに充実させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善案：教学 IR 室からの情報を受け、プログラム改善、システム強化を推進し、実績を重ねていく。

改善内容：統合教育学修センター内に教学 IR チームを作った。同チームは、学内の教育成果に関して多角的なデータ解析と種々の委員会等への報告書の提出により、各委員会での PDCA サイクルの実現を通して担当する機能の充実と成果の向上を実施中である。

令和 4 年度は、カリキュラム評価・プログラム評価については、Post-CC OSCE と各種試験との相関分析や、「AI・データサイエンスと医療」に関する自己点検・評価報告を行った。国試分析としては国試合否と卒業試験との相関分析を実施し、卒業生調査としては、他大学との比較を行い、質問項目数の最適化を検討中である。これらの分析を今後カリキュラム・プ

プログラム改善に活かしていく予定である。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 9-0-1 第 61 回医学教育の質向上委員会議事録
- 資料 9-0-2 2021 年度卒業生における卒業試験成績と医師国家試験成績との比較
- 資料 9-0-3 統合教育学修センター令和 2 年度報告書
- 資料 9-0-4 統合教育学修センター令和 3 年度報告書
- 資料 9-0-5 統合教育学修センター令和 4 年度報告書
- 資料 9-0-6 統合教育学修センター教学 IR チーム令和 4 年度年次報告